

## 産科に通院中の患者さんへ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の記録をまとめることによって行います。このような研究は、厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 妊娠中の D ダイマー値と深部静脈血栓症についての後方視的研究

[研究機関] 北海道大学病院産科

[研究責任者] 山田 俊（産科・講師／診療准教授）

### [研究の目的]

妊娠中は、凝固系（血液の固まるしくみ）は亢進、線溶系（固まった血液の溶けるしくみ）は抑制され、全体として凝固系に傾いた状態となります。この結果、妊娠中は非妊娠時と較べて深部静脈血栓症（血管内に血液の塊が生じる病気）を発症しやすい状態となり、深部静脈血栓症の有無を確認するための検査の必要性も高くなります。血栓症診断において、D ダイマー検査は非妊娠時には感度・特異度が高いのですが、妊娠時には、胎盤内での母体血の凝固・線溶の影響で血栓症がなくても D ダイマー値が上昇することが知られていて、非妊娠時の基準をそのまま用いる事はできません。北海道大学病院産科では入院中の定期検査として、過去5年間でのべ2000件以上のD ダイマー検査を行っています。本研究は、臨床的に血栓症がない妊娠女性におけるD ダイマー値の妊娠週数別分布を振り返って調べ、深部静脈血栓症を発症した妊娠女性の値と比較することにより、妊娠中の血栓症診断における診断的意義を明らかにすることを目的とします。

### [研究の方法]

#### ●対象となる患者さん

平成19年1月1日から平成24年5月31日の間に当院にて分娩した方のうち、妊娠中にD ダイマー検査を受けた妊娠女性

#### ●利用するカルテ情報

対象について、以下の項目の調査をおこないます。

①年齢 ②非妊娠時 body mass index ③経産回数 ④分娩時の妊娠週数 ⑤胎児数 ⑥出生体重 ⑦妊娠高血圧症候群の有無 ⑧血栓症の有無 ⑨D ダイマー検査時の妊娠週数 ⑩D ダイマー値 ⑪アンチトロンビン活性

### [個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

### [問い合わせ先]

北海道札幌市北14条西5丁目  
北海道大学病院産科 担当医師 山田 俊  
電話 011-706-6051 FAX 011-706-7981